

競技会と 中小企業

選手育成法とその成果 ②

坂口製作所(大阪市)

初の入賞で目の色変わる

はティグ溶接中板部門に過去4回連続出場したが入賞には至らず、今回3年ぶりの挑戦で念願の日本一に輝いた。

坂口社長は、「60年の歴史を有する当社は、アルミニウム・ステンレス製品に特化した事業展開してきた。当社の最大の武器は溶接技術であり、強みと自負している。ダブル優勝できた」とコメントする。

とは各方面に大きなインパクトを与え、社員にも大らかな刺激となりモチベーションアップにつながることを期待している。技術集団を形成している。

従業員85人、資本金1000万円。1951年の創業以来、同社はアルミニウム・ステンレス加工で高度な溶接技術を駆使し、新幹線制御ボックスや原子燃料輸送容器などの超精密加工から選挙用投票箱まで、多種多様な製品群を製造している。

75人が勤務する主力の和歌山工場(和歌山県有田川町)は紀伊山地の中央部に位置し、一般的な工業団地のイメージからは程遠い。しかし溶接作業者のほとんどが資格を持ち、その数はアルミ溶接では延べ170件、ステンレス溶接では延べ64件に達している。また、全国に6社しかない「軽金属溶接構造物製造

は各方面に大きなインパクトを与え、社員にも大らかな刺激となりモチベーションアップにつながることを期待している。技術集団を形成している。

従業員85人、資本金1000万円。1951年の創業以来、同社はアルミニウム・ステンレス加工で高度な溶接技術を駆使し、新幹線制御ボックスや原子燃料輸送容器などの超精密加工から選挙用投票箱まで、多種多様な製品群を製造している。

75人が勤務する主力の和歌山工場(和歌山県有田川町)は紀伊山地の中央部に位置し、一般的な工業団地のイメージからは程遠い。しかし溶接作業者のほとんどが資格を持ち、その数はアルミ溶接では延べ170件、ステンレス溶接では延べ64件に達している。また、全国に6社しかない「軽金属溶接構造物製造

のわずかな時間にテストピースに向かうところからスタートした。この地道な積み重ねは06年の32回大会で開花。ティグ溶接中板の部で岡本常務選手が初入賞。さらに翌年、同選手はティグ溶接固定管の部で優秀賞に輝いた。

1人の入賞者の出現により周囲の目の色も変わった。出場者の経験談や競技内容などを聞き情報交換していくうちに、従業員が競技会を意識し意欲を持つようになった。決して会社からの指示ではなく、技能道場もマニュアルもない。坂口社長は「結局、本人のやる気。我々はモチベーションを高めるための仕組みは作るが、それを活用するのは本人次第」と自主性を尊重する。

同社の場合、選手育成だけでなく技能伝承においてもOJTが基本。日頃のコミュニケーションを通じ、従業員同士が技量意識を高め合っていく。また、数年おきに軽溶協から講師を招き技術講習会を開くと、彼らは真剣なまなざしで聴講し積極的に質問する。

「従業員はみな真面目で定着率も高い。それが当社の技術構築、技能伝承につながっている。しかも、山奥から日本一、あるいは世界最新鋭の製品を作り出しているというプライドが彼らのやる気、モチベーションとなっている」(福本工場長)

道上部長も「競技会では優勝を狙うが、日常業務では突出した名人を育てる考えはない。アベレージヒッターを育成するよう心がけている。互いが切磋琢磨することで自然に技量は高まる」との指導方針を示す。

坂口社長は、「これからもアルミ溶接では日本一の技量を持つ存在ある企業を目指していく。競技会は、中小企業にとっ



選手育成はOJTを基本としモチベーション高揚を社を挙げて支援する

本人のモチベーションが全て

「競技会に対する意識改革が進んだ(道上文良組立製缶部長)」。また、「競技会のプロ」を育成するわけではない。業務終了後、意識を高め合っていく。また、

「従業員はみな真面目で定着率も高い。それが当社の技術構築、技能伝承につながっている。しかも、山奥から日本一、あるいは世界最新鋭の製品を作り出しているというプライドが彼らのやる気、モチベーションとなっている」(福本工場長)

道上部長も「競技会では優勝を狙うが、日常業務では突出した名人を育てる考えはない。アベレージヒッターを育成するよう心がけている。互いが切磋琢磨することで自然に技量は高まる」との指導方針を示す。

坂口社長は、「これからもアルミ溶接では日本一の技量を持つ存在ある企業を目指していく。競技会は、中小企業にとっ

生ずることを期待したい。

各種アルミニウム・ステンレス製品の製造、加工を手がける坂口製作所(大阪市西成区、坂口清信社長)は、昨年10月の「第38回全国軽金属溶接技術競技会」でティグ溶接中板とティグ溶接中板の両部門でダブル優勝した。大手企業が多数参加する同競技会でティグ溶接では3年連続入賞してきた同社だが、優勝は今回が初めて。ティグ溶接も初の栄冠に輝いた。

◇ ティグ溶接で優勝した田中寿和選手(35)は前年1点差の準優勝という悔しい思いに一矢を報い、一方の中井隆善選手(29)